

「人生の金メダル」で学んだこと

八代市立千丁小学校 5年 古里 春日

私が剣道をはじめたのは、小学校1年生のときです。きっかけは、母からの勧めでした。体育館へ見学に行くと、みんな大きな声を出して剣道をしています。初めて見た剣道は、道着がとてもカッコいいなあと思った反面、いたそうだなあと思いました。それから見学を重ねるうちに、私は知らず知らず剣道の竹刀をにぎり、素ぶりをはじめていました。練習は、とても大変でした。大きな声を出したり、真っすぐ竹刀をふったり、足をすり足で動かしたりと、がんばることがいっぱいでした。

そんなとき、初めて剣道の試合に出ることになりました。私は、なぜか自信がありました。そこで、試合開始の合図と同時に、おもいきり打っていきましました。でも結果は、すぐに負けてしまいました。その後も、試合には出ていますが、なかなか勝てません。そんなときに「人生の金メダル」というお話に出会いました。203連勝もしている山下選手でも、負けたことがあったことを知りました。

私も負けるときの気持ちはよくわかります。でも、山下選手は、自分の結果をしっかりと受けとめ、自分のうぬぼれや自分の力を出しきっていなかったことを考え、素直な心で練習にのぞむようになりました。私とは、負けたときの気持ちが全くちがっていて、とても考えさせられました。私は、負けるといつもくやしい気持ちでいっぱいになるだけでした。「山下選手のような気持ちになりたい。」そう思うようになりました。

私はこれからも、いろいろな大会に出て、試合をすることと思います。山下選手のように、自分の力をしっかり出しきっていけるよう素直な心で練習し、試合に出たいと思います。

剣道では、試合に勝っても負けても最後はきちんと礼をします。今回の山下選手のお話で、この意味が少しわかったような気がしました。今まで剣道を続けてよかったです。そして、これからもがんばりたいと思います。